

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2571200225
法人名	医療法人社団 真下胃腸科医院
事業所名	グループホーム 大宝の郷
訪問調査日	平成 19年 9月 11日
評価確定日	平成 19年 10月 1日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2571200225		
法人名	医療法人社団 真下胃腸科医院		
事業所名	グループホーム 大宝の郷		
所在地	滋賀県栗東市糺8丁目17番54号 (電話) 077-554-7557		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂2階		
訪問調査日	平成 19年 9月 11日	評価確定日	平成19年10月 1日

【情報提供票より】(19年 8月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 7月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 12,000円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	10 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	64 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR栗東駅から歩いて数分の便利な場所にあり、鉄筋コンクリート2階建の1階と2階に18名が暮している。近くの経営母体である医院には 内科・外科・整形外科があり、協力歯科医も同一建物にある。体調が悪い場合は直ぐに受診出来るため安心して過ごせる。事業所では納涼祭、植物園の見学、神社の花見など行事を頻繁に行い、家族の訪問を促している。家族の面会は利用者が家族の近況を知る楽しい時でもあり、利用者の心を癒している。この機会を家族と職員の情報交換の場としており、得られた情報は介護に反映されている。地域社会とは支援して貰うだけではなく、清掃活動や見学の受入れなどを行って地域にも還元しており、地域と共に生き、地域の中で暮らし続けるグループホームを目指す姿が窺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査で「お便り」を毎月発行し、行事の案内や利用者の近況連絡を積極的に行なうよう提案があり、実行した。昨年は市町村との連携は消極的だったが今年は運営推進会議を開き、連携を強め行事を遂行している。この他、玄関に鍵を掛けない工夫や契約書の権利義務を改定するなど多くの改善が行なわれた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の自己及び外部評価を基に改善された点が多くあり、評価の重要性は理解されている。その上で今回は職員全員が自己評価を作成しまとめたもので高く評価できる。今後は課題の更なる改善実施に皆で取り組んで欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、市と町、家族、事業所の関係者が出席し、既に5回実施された。議題は事業所の現状報告や納涼祭など行事の支援要請が主であるが、昨年まで無かった会議を開催するに至った意義は誠に大きい。今後は今の議題に自己評価や外部評価で指摘された課題を公表し、事業所の運営改善に役立つ内容の討議を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事を積極的に行ない家族の面会を促している。意見や不安はこの面会時に汲み取り、運営に反映されている。家族の関心が高い日常生活や体調の情報は面会時に詳しく報告している。今後の課題として面会の多少や声の大小に関係なく、公平に意見を収集できる仕組み作りに取り組んで頂きたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所内に「ふれあい喫茶」を設け来所を促したり、清掃活動に参加するなど積極的に活動している。事業所の行事が多く、市や町の支援が必要である。地域に頼るところは大いに頼り、代わりに小学生の見学を受入れるなど、地域社会に貢献している。これらは今後も継続し発展させて欲しい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日常生活の中で心身の機能訓練をし、自立を促し、地域の人々とのふれ合いを大切にし、安心かつ充実した生活を営むよう支援する」が事業所の理念である。地域の奉仕活動にも積極的に参加することで交流を深め、事業所独自の理念の実践を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は名札に理念を記したものを入れ、出勤、退所時には必ず目を通すようにしている。介護の現場で判断を必要とする際は、理念を基に対応するよう取り組んでいる。場合によってはミーティングを開き、解決策が理念から外れていないかの確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所内に「ふれあい喫茶」を設けたり小学校の運動会や地元の奉仕作業に参加している。地域の民生委員とボランティアの協力により納涼祭を行なうなど積極的に地域との交流を行なっている。また、120名の小学生の見学、実習を受入れたり、日赤奉仕団の見学・研修を受入れるなどの社会貢献にも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で提案された「お便り」の発行や鍵を掛けない工夫など、改善された点が多くあり、評価の意義を理解した上で、今回は職員全員が自己評価を行なった。評価後は職員会議で改善策を検討し、実施に努めている。		職員の研修、災害時の避難訓練などが継続取り組み課題である。また、新たに利用者の終末期の取り組みや水分摂取の問題などの課題にも今年は取り組むよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し現状報告、行事予定と支援、情報交換を行なっている。参加者は市、近隣の町内会長、民生委員、介護相談員、家族、事業者の職員である。内容は行事の準備、役割、地域との連携、迷子の見回り巡回など協力依頼が主である。この機会を利用し事業者の行事予定や活動内容をPRしている。		今後はこの会議開催の主旨を理解した上で、内容を検討して欲しい。自己評価や外部評価の問題点や課題を公表し、運営に参考になる意見を求め、改善に向けた討議をするよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会や老人会に加入し、近隣の町会、民生委員など地域との連携は密接に行なわれている。支援を要請するだけでなく、清掃活動や見学の受け入れなど地域の行事には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「ホーム新聞」と「お便り」を発行している。内容は行事の結果や予定、新入利用者の紹介、職員のメッセージなど、写真入で判りやすく好評である。今年始めた本人直筆の「お便り」は、家族には日常の生活状況が判り、安心感を与えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会を多くし、その際意見を収集し運営に反映しているため家族の不満が少ない。苦情相談窓口は事業所と市の窓口を「重要事項説明書」で明確に伝えている。外部に相談する場合は市の長寿福祉課になっており、電話番号も記載している。		面会時に意見を聞き出す今の方法は継続し、更に面会回数の多少や声の大小にかかわらず、意見が収集されやすくするため、家族会の結成など仕組作りを検討して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や移動は入居者に説明はしていないが、ダメージを防ぐため引継ぎの期間を最低でも10日以上取り、利用者の負担を軽くする努力をしている。昨年は異動の職員がいたが、今年はいなく利用者も落ちついていいる。		異動や離職を最小限にすると共に、やむを得ず異動が生じた場合は利用者や家族への説明はして頂きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・受講の機会を確保し、内容について資料を回覧しているが、時間のゆとりが無いため、全員が研修を受けたり資格を取得するまでには至っていない。昨年もこの点について指摘されていたが、改善されるには至っていない。	○	2年越しの課題である。個人別の育成計画を作成し、今年には是非実行して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を含め全員が参加しているわけではないが、淡海グループホーム協議会に加盟し定期的に交流、研修に参加している。年2回の系列事業所の食事会に参加し、サービスの質を向上するための取り組みをしている。		交流は行なわれているが全職員が参加していないので、相互訪問の回数を増やすなどをして、全員が交流を図れるよう取り組んで欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用予定者と家族が事業所に見学に来て頂き、利用者や職員の紹介をして、雰囲気慣れて頂くよう心掛けている。おやつ時間帯に来て頂き、皆との顔なじみになれるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とする菜園や興味のある手芸、活花などは職員が教わるようである。職員は利用者が得意とすることには積極的に取り組むよう心掛けている。育てた野菜などは利用者と共に喜びを味わっている。利用者とその家族には行事の際の支援などを依頼し、お互いに支え合う関係を築いている。		18名の利用者の中には得意とする分野を持った方がおり、その方から職員も教わることが多い。今後は更に支え合う分野を拡大し、今の関係を大切に継続して頂きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意思の確認は日々の生活の中で交わす会話から汲み取るようにしている。友人や親戚の人に会いたいとか電話を掛けて欲しいなどの希望は叶えている。行きたい所がある場合は家族の協力を得て希望に応じている。本人がやりたくないことは無理強いしない。利用者の表情には余裕が感じられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	よりよく暮らすために本人に対して毎月ケアカンファレンスを行ない、普段から話し合いをしている。家族の希望も取り入れ本人と家族の意向を反映した介護計画を作成している。実施に当たっては本人の生活歴を重視すると共に、職員が日常生活の中で観察したものを参考に、個々のペースに合わせたケアをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直すと共に、状況の変化に応じて本人、家族、必要な関係者とのミニカンファレンスを行い見直している。計画の変更は全職員が把握し実施について話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業主が近くで内科・外科・整形外科を経営し、同一建物内に協力歯科医もあるため、毎月2回の往診を受けている。状況に応じて専門医に受診するよう対応している。また当事業所は医療連携体制加算事業所として健康管理面では安心して任せられる環境にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾病によっては専門の医療機関で受診している。これは本人と家族の希望に応じ、家族の協力を得て行なっている。協力医療機関として社会福祉法人 恩賜財団済生会滋賀県病院を指定している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、個人別に終末期の具体的取り組み方針を、本人・家族及び職員全員が共有するには至っていない。	○	終末期のケアのあり方や対応は早期の段階から医師と連携し、職員全員が方針を共有するよう取り組んで欲しい。終末期は家で迎えたいという本人の気持ちと、それに反対する家族がいる場合は難しく、日頃からの話し合いが大切で、よりよいあり方を模索するためにも、この問題に早期から取り組み、考え方を共有する努力をして頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に対応する場合は敬語を使うなど本人のプライドを傷つけないよう注意している。利用者全員が個室のため入室する際は声を掛けるかノックをするなど配慮をしている。毎朝バイタルチェックを行い、個人の情報を記録しているので情報の扱いは慎重に行なっている。小遣は自分で管理する人もいるが、出納帳は全員の分を職員が管理している。		職員の利用者に対する態度、言葉使いなどは目標を高くおいているので、自己評価では満足していない。観察結果ではレベル以上と考えるが、今後も利用者の人格を尊重し、プライドを傷つけない対応など更なる向上を目指し改善に努めて頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は決めているが、個々のペースに合わせて柔軟に対応している。散歩や菜園の世話、活花など趣味の活動も利用者の希望に沿って支援している。身だしなみやおしゃれにも気配りし、本人の好みを大切にしている。美・理容は店に行くか、出張してくれる。馴染みの店に行く場合は家族が同伴してくれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や個々の好みを取り入れた献立を、利用者と職員が共同で考えている。料理が得意な利用者には味付けや、料理をして頂く。作られた料理は職員も一緒に頂くので、味付けや出来具合を話題に取り上げている。準備や片付けも一緒に行なっている。入居者の誕生日やお正月などは特別に祝いの膳が付く。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜はもちろん昼間にも入浴できるようにしているが、嫌いな方には曜日を決め、納得して入浴をして貰っている。希望によりシャワーや足湯も行なっている。そそうして着物を汚した場合は直ぐに入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や菜園の水撒き、掃除、活花など得意分野で役割を担当している。個々の生活歴を基に喜びを味わうためにも大切な日課である。ギターを弾く方や書をする人がおり、納涼祭で発表したり誕生日に色紙を書いたりして、それぞれの趣味を生かした暮らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所はJRの駅から近くにあるため便利な反面交通量が多く、道路には歩道が無いので危険である。しかし、身体を動かすことにより体力の維持も出来るし夜もよく眠れるなどの利点があるので積極的に外出するよう支援している。		利用者個々の希望として映画や観劇、観光を望む人もいるので、職員は利用者一人ひとりの要望に応じてあげたいと考えている。この思いが実を結ぶことを期待する。また、遠出の際は万一のことを考え、名札の着用などを検討して頂きたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けていない。その代わり利用者が外出しそうな様子を察知したら声を掛け、さりげなく見守り、所在を確認している。場合によっては一緒に同行する。玄関にはセンサーを付け、人の出入りを確認出来るようにした。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内にも火災報知機が設置してあり、その使い方については職員全員が習得している。マニュアルもあるが火災や地震、水害時などの避難訓練は一度も実施していない。	○	消防署立会いの避難訓練は実施して欲しい。その上で課題などの検討を行い、スムーズな避難が出来るよう訓練することを期待する。運営推進会議の議題として、「地域の避難訓練」を取り上げ、検討されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養価を吟味した料理を作っているため、全部摂取すれば問題ないが、体調により摂取量が変わった場合、お粥にしたりきざみにするなどして対応している。食事量は個別に記録し管理している。個々の水分摂取状況は把握していない。常時お茶などが飲めるようポットや茶器の設備はある。		随時 水分を摂る習慣づけは出来ているが、今後は個々人に必要な水分量が一日を通じて摂取されているかどうかを把握する工夫と努力をして欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はよく清掃され、空調、換気、遮光、不快な音などには配慮されている。畳のスペースも作ったり、居間から菜園が眺められるなどの工夫がされている。廊下や玄関、外には縁台を設置しいつでも休めるようになっている。玄関には利用者が活けた花があり季節感を味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の広さは7畳弱であるため好きな家具を置いている。温度調整や換気は利用者の希望に合わせ職員が行なっている。その他遮光、遮音などは問題ない。鍵も掛けられるが掛けるかどうかは利用者の自由である。整理整頓、清掃はされていた。この部屋で家族が泊まれるようになっている。		